



佐倉市の早期景気観測調査

令和7年度第1回(令和7年4～6月)の結果報告

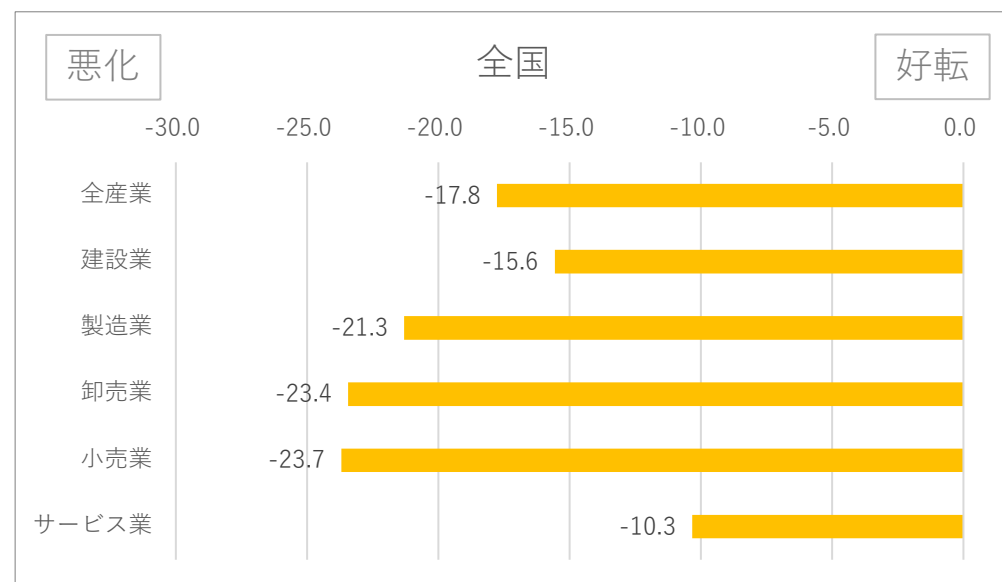
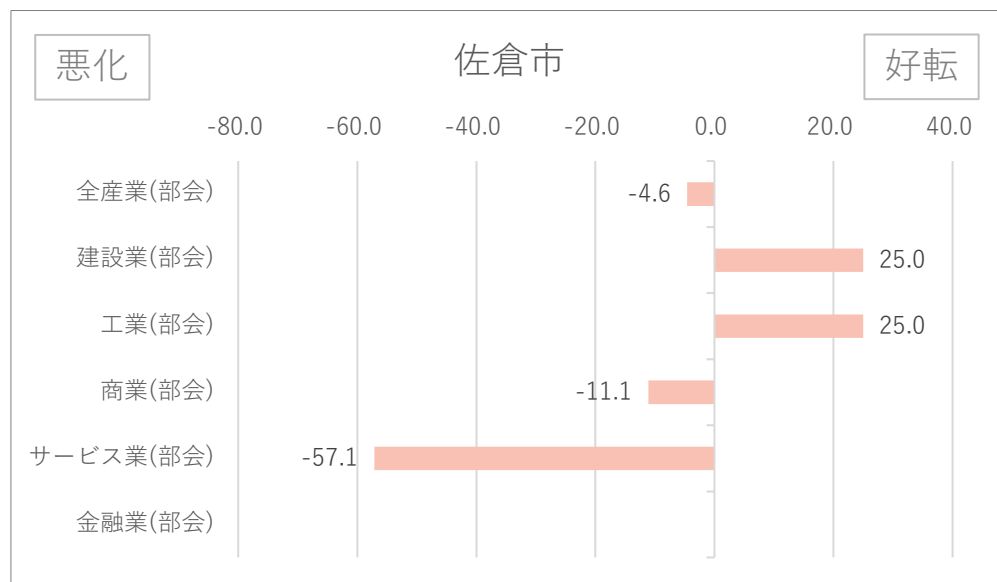
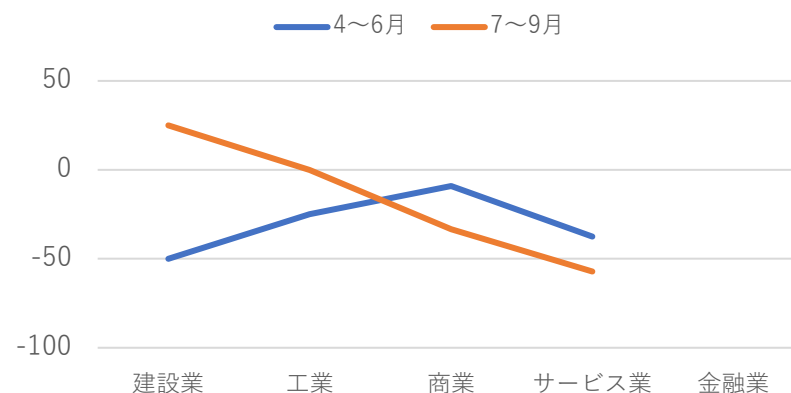


佐倉商工会議所

佐倉市における業況見通しは、建設業(部会)と工業(部会)において好転の兆しが見られたため、前回調査と比べ、全産業(部会)で悪化の幅が縮小する結果となった。一方、全国調査では全産業で継続的なマイナス基調となっており、厳しい状況は継続する。

3ヶ月後の先行き見通しも、一部において回復が見込まれる結果となった。一方、商業(部会)やサービス業(部会)では、さらなる悪化の見通しが見られており、マイナス基調が続いている。

■3ヶ月後の先行き見通し

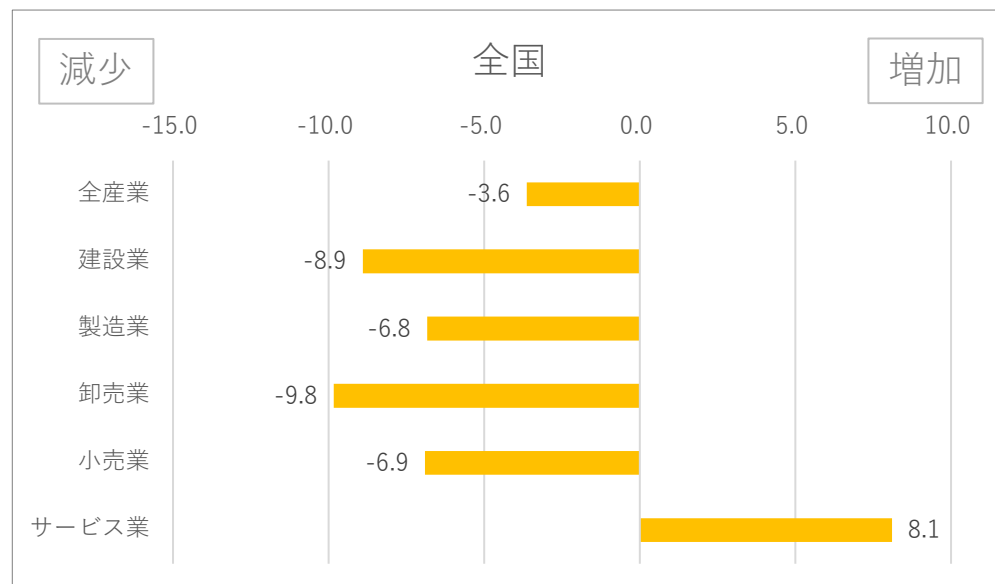
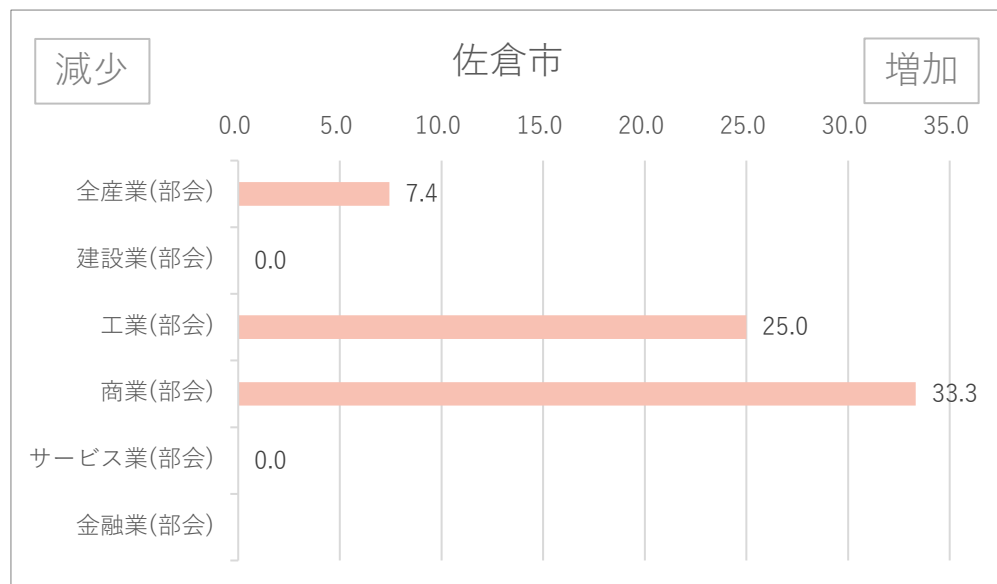
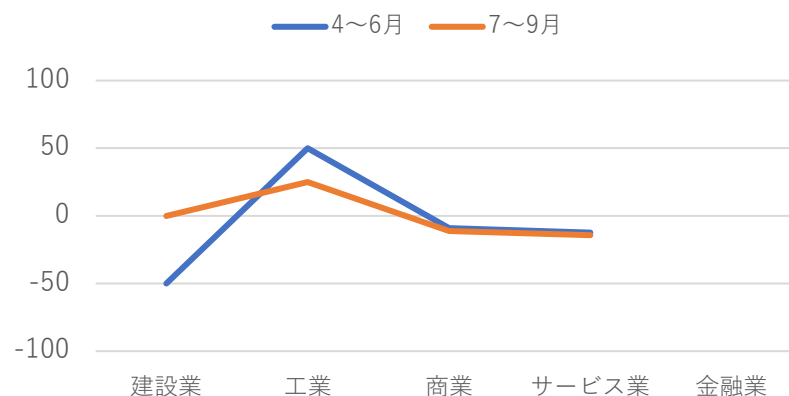


※日本商工会議所LOBO調査より

佐倉市における全産業の売上高見通しは、全国的な物価高騰を背景として全産業(部会)で増加となった。特に、生活必需品の値上げなどによって商業(部会)では大幅な増加となった。全国調査ではサービス業のみこれまでの減少傾向から一転して増加となっている。

また、3ヶ月後の先行き見通しは前回調査と同様の見通しが示された。建設業(部会)でやや増加、工業(部会)はやや減少など、小幅な調整がありつつも全体的に慎重な見通しとなっている。

■3ヶ月後の先行き見通し

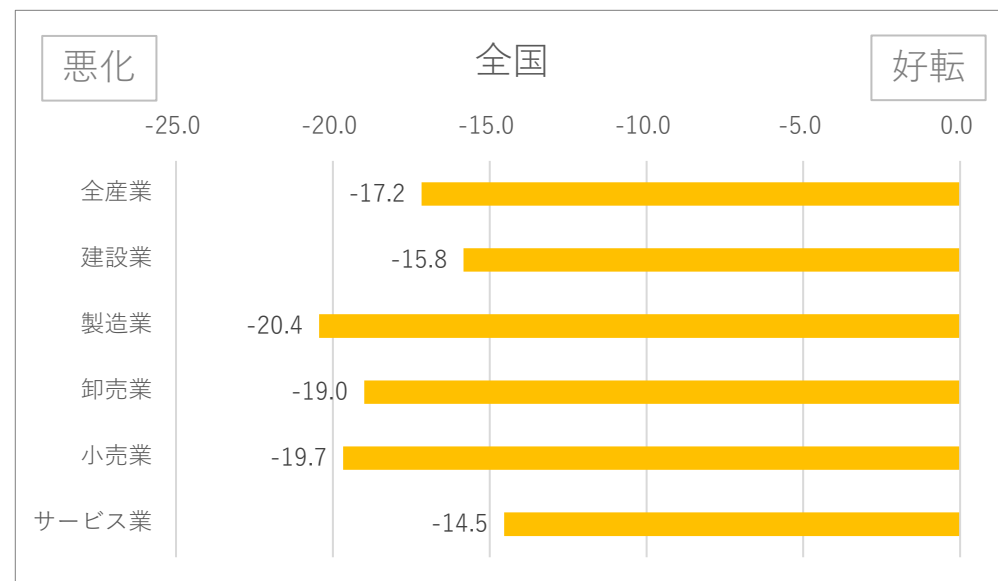
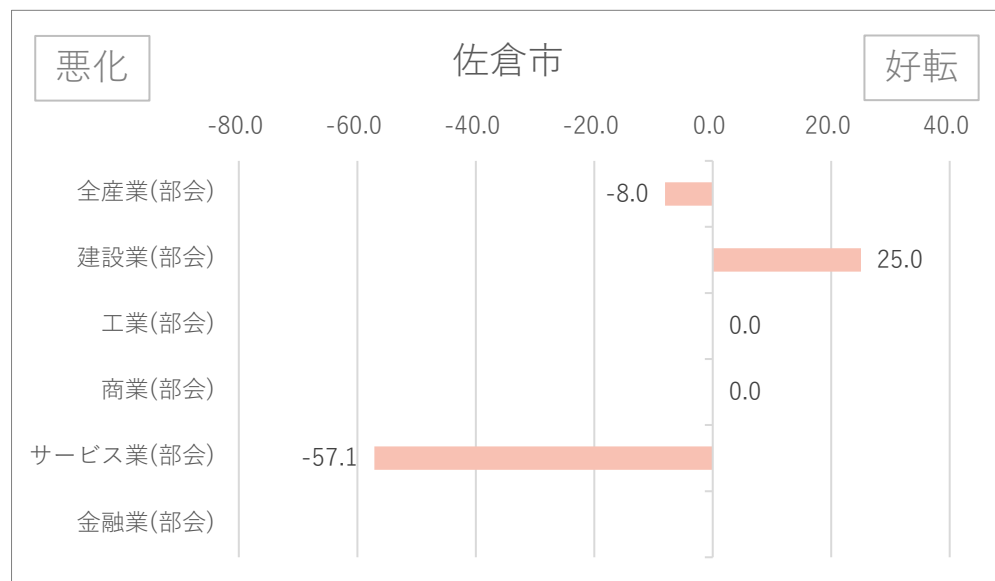
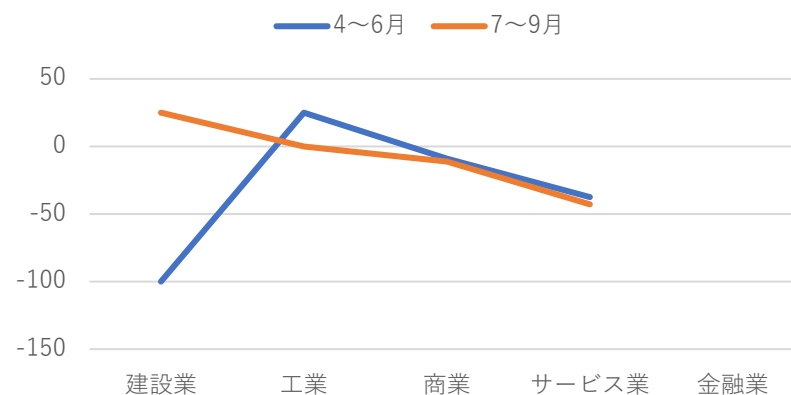


※日本商工会議所LOBO調査より

佐倉市における採算見通しは、各部会により判断が分かれたために全体としては小幅な悪化が示された。特にサービス業(部会)の悪化の幅が大きく注視が必要となる。また、全国調査では全産業で継続的な悪化が示されており、さらなる採算性の悪化が懸念される。

なお、3ヶ月後の先行き見通しでは建設業(部会)のみ好転の兆しが見通されているものの全体的にマイナス基調となった。継続する物価高による消費マインドの下押しが続く。

■3ヶ月後の先行き見通し

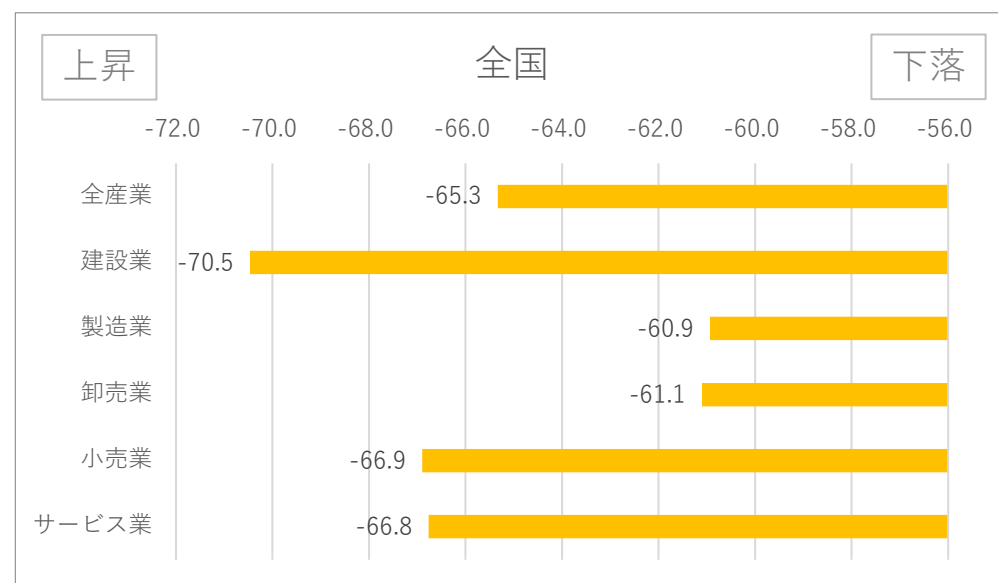
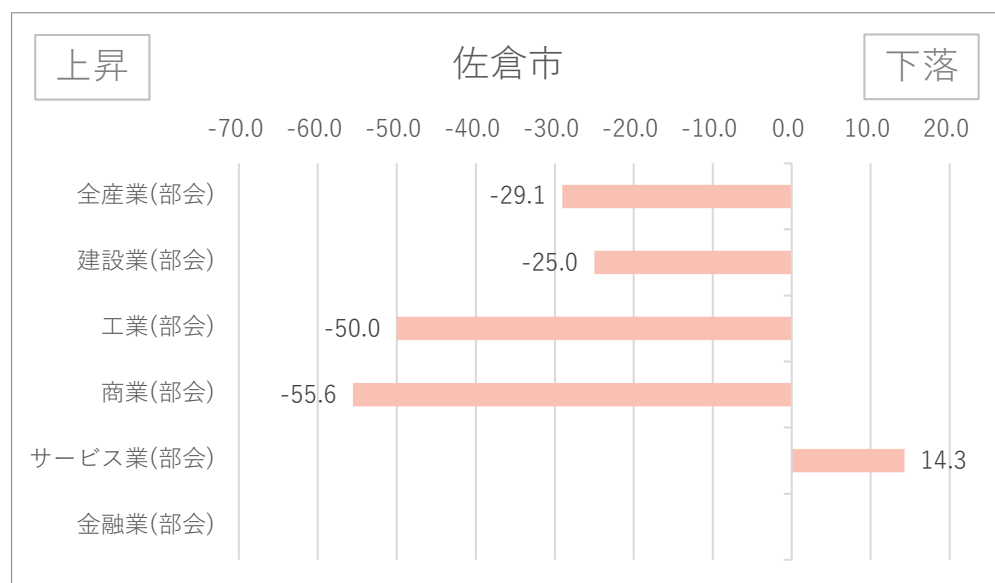
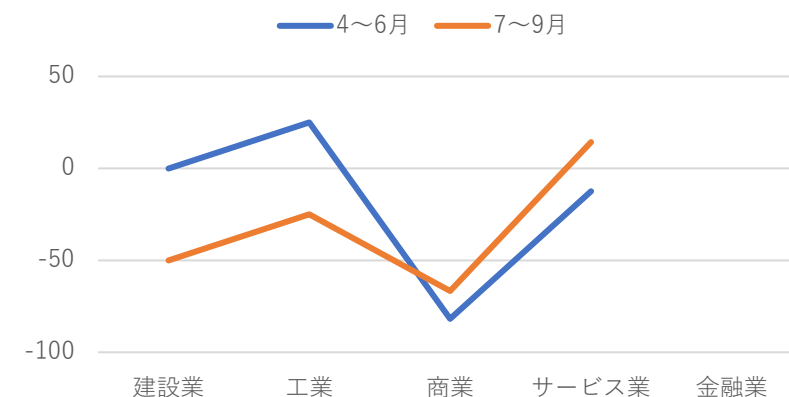


※日本商工会議所LOBO調査より

佐倉市における仕入れ単価は、サービス業(部会)の下落傾向を除き全産業(部会)で上昇となった。前回調査の▲28.8から横這いの結果となり、上昇傾向は続いている。一方、全国調査でも業種ごとに動きはあるものの、全産業で上昇傾向が示されている。

また、3ヶ月後の先行きは部会で見通しが分かれた。建設業(部会)と工業(部会)で上昇が見込まれる一方で、商業(部会)とサービス業(部会)では下落が見通される結果となった。

■3ヶ月後の先行き見通し

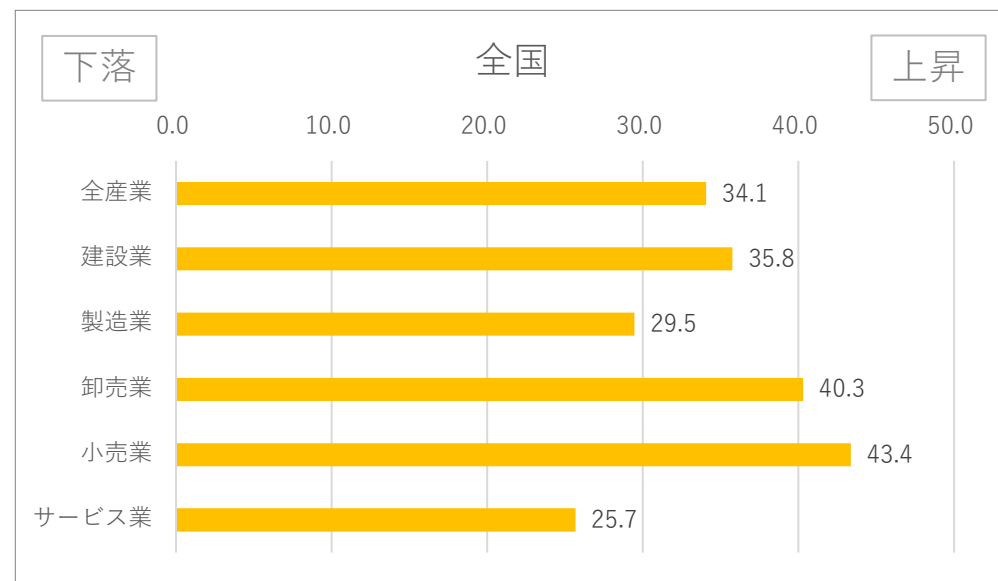
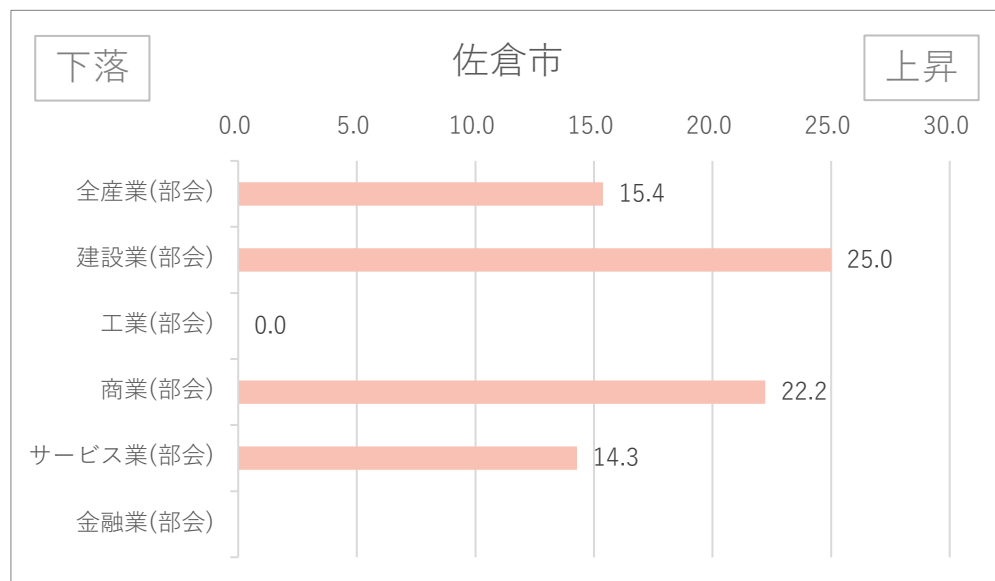
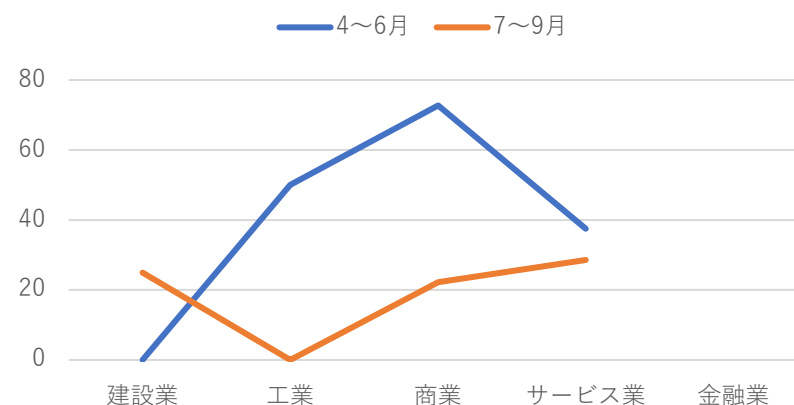


※日本商工会議所LOBO調査より

佐倉市における販売価格は、工業(部会)の横這い以外、ほぼ全産業(部会)で継続的な上昇となったが、冷え込む消費マインドとの乖離が懸念される。全国調査も同様の上昇傾向が続いており、卸売業と小売業が上昇基調をけん引するかたちも続いている。

3ヶ月後の先行き見通しも、ほぼ全産業(部会)でさらなる上昇を見通す結果となっている。今後は猛暑や台風被害など、さらなる経営環境の悪化が懸念される。

■3ヶ月後の先行き見通し

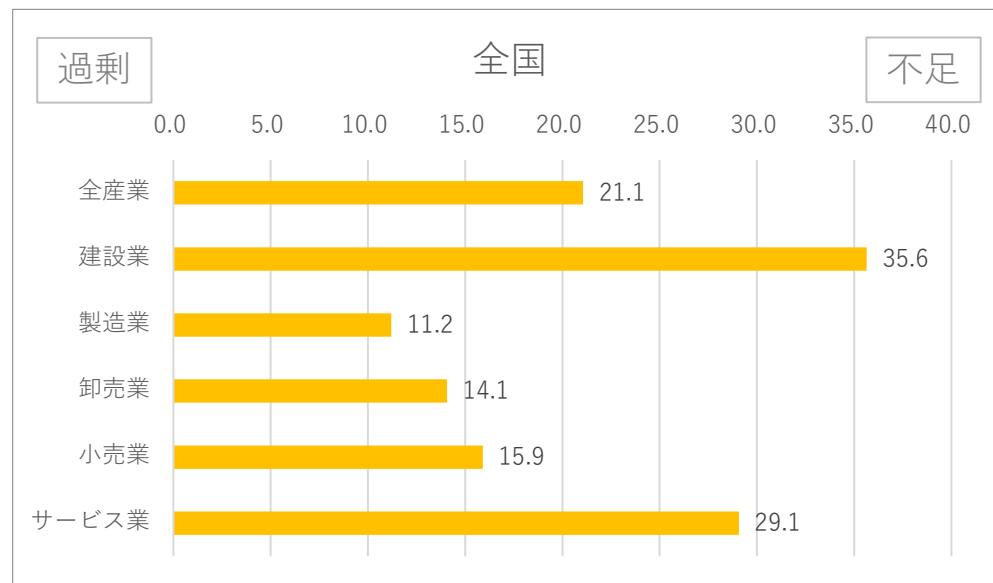
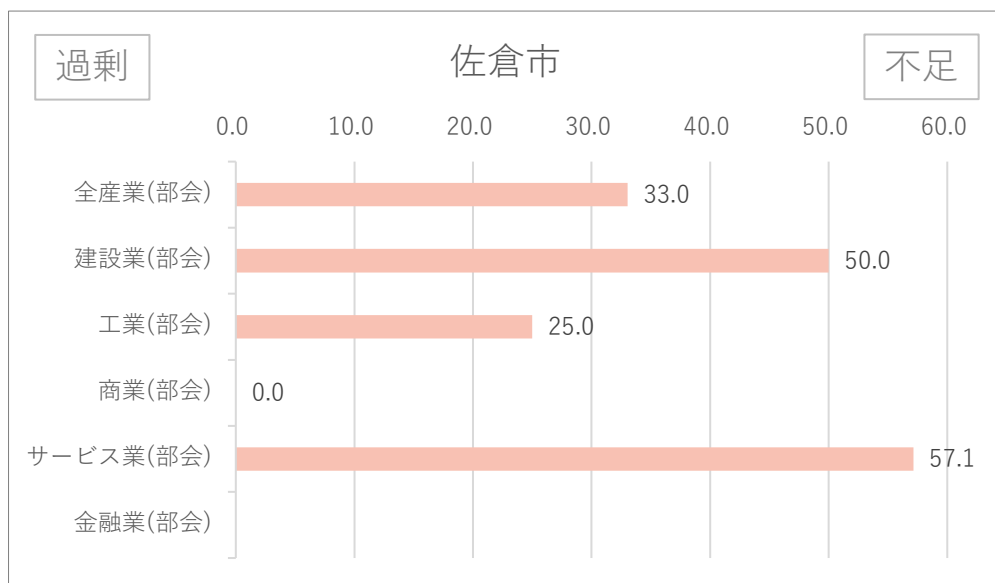
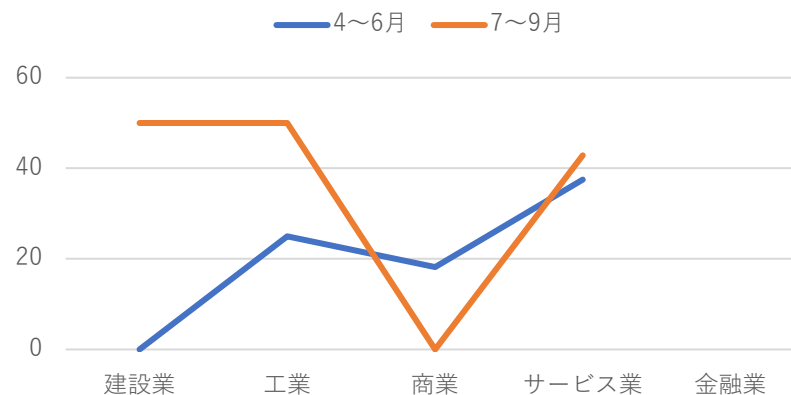


※日本商工会議所LOBO調査より

佐倉市における全産業の従業員の状況は、商業(部会)のみ横這いとなったが、ほぼ全産業で不足感が継続した。その傾向は全国の調査とほぼ同様な傾向を示しており、建設業とサービス業で根強く継続する不足感が全産業における不足感をけん引している。

さらに、3ヶ月後の先行き見通しでも、全体的な不足感はさらに継続すると見通されている。建設業やサービス業を中心に、人手不足と賃上げ圧力にどう対応するか難しいかじ取りが迫られる。

■3ヶ月後の先行き見通し

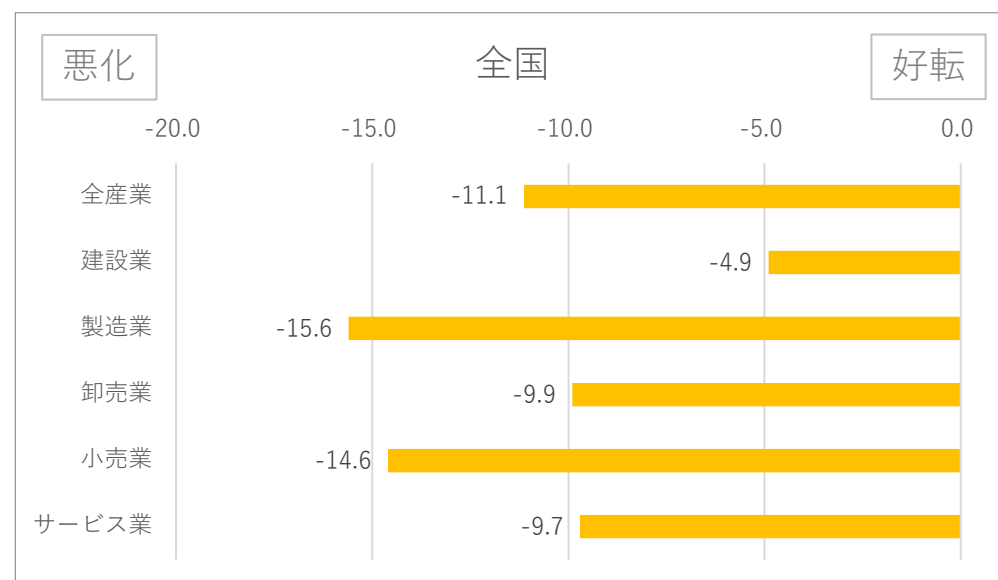
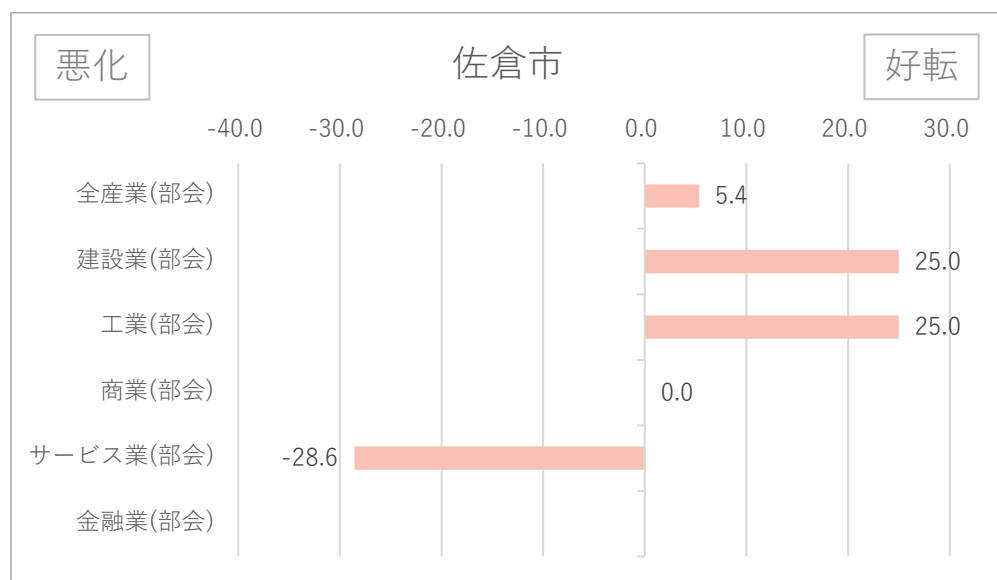
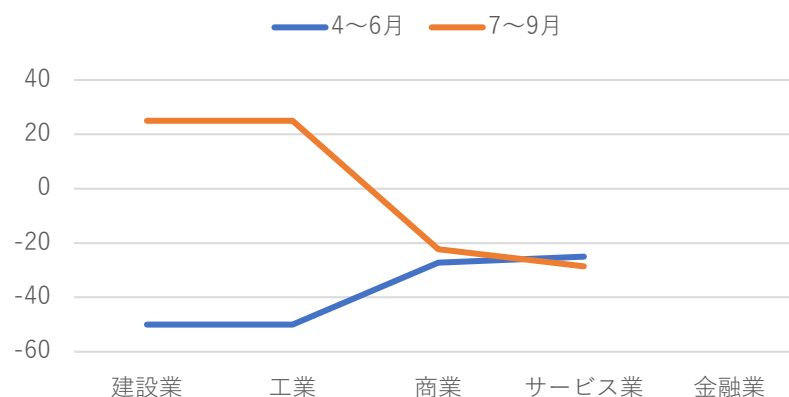


※日本商工会議所LOBO調査より

佐倉市における資金繰り状況は、ほぼ建設業(部会)と工業(部会)で前回調査よりやや好転を示す結果となったが、サービス業(部会)では悪化傾向が継続している。全国調査は継続して全産業が悪化を示しており、今後も厳しい状況が継続すると見込まれる。

また、3ヶ月後の先行き見通しでも、今期の景況判断と同様の結果となっている。コロナ禍を乗り越えた一服感がある一方で、原材料高や人手不足など経営環境はさらに厳しさを増している。

■3ヶ月後の先行き見通し



※日本商工会議所LOBO調査より

部会	コメント内容
建設業部会	
工業部会	・ 都内の再開発は端境期にあり仕事量は薄目、量の確保の為に遠方物件を受注。設備投資はトランプ政権の関税政策など不安要素が多いですが強気で実行予定。
商業部会	・ 弊社の今期の売上増加は、数年に一度の中学校の教科書更新による特別の売上があったため。
サービス業部会	
金融業部会	

早期景気観測とは

地域の中小企業が「肌で感じる足元の景況感」や「直面する経営課題」（採用、設備投資、賃金動向等）を調査し、その結果を集計・公表するもの。QUICK SURVEY SYSTEM OF **LOCAL BUSINESS OUTLOOK** からLOBO調査などと呼ばれる。

調査の目的

企業を取り巻く経営環境や直面する課題等の現状を示すデータとして、経済対策に関する政策提言・要望活動などに活用すること。

調査の方法

調査依頼をメールにて一斉配信、Googleフォームのアンケートに対する回答入力による回収。

調査回答構成比

	商業 部会	工業 部会	建設 業部会	サービス業 部会	金融業 部会
部会員数 構成比	34.02%	7.06%	22.93%	32.80%	3.18%
回答数 構成比	37.50%	16.67%	16.67%	29.17%	0.00%

調査対象期間・回収期間

調査対象期間：令和7年4月～6月（3ヶ月間）

回収期間：令和7年7月1日～7月31日（Googleフォーム）

景況判断指数（DI値）とは、業況・売上・採算などの各項目についての判断の状況を表す数値。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景況感の相対的な広がりを意味する。【景況判断指数＝（増加・好転などの回答割合）－（減少・悪化などの回答割合）】